

会議結果報告書

令和5年4月24日

会議の名称	令和5年度 第1回志木市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年4月24日（月）10:00～11:20
開催場所	志木市役所 中会議室2-2
出席委員	木下 和夫 上原 京子 大石 裕弘 志村 智 星野 賢 佐野 隆之 (計6人)
欠席委員	有竹 豊久 高橋 良和 (計2人)
説明員職氏名	吉成副課長 市川主事 (計2人)
議題	(1) 令和4年度事業報告について (2) 令和5年度事業報告について (3) 部活動の地域移行について (4) その他
結果	別紙のとおり (傍聴者0人)
事務局職員	土崎課長、吉成副課長、市川主事、遠藤主事補

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会 （事務局）

2 あいさつ （委員及び生涯学習課職員）

3 議 事

（1）令和4年度事業報告について

事務局)「いつでも・どこでも・だれでもスポーツが楽しめる夢のあるまち」の実現にむけて、また、スポーツを週1回以上行う20歳以上の市民の割合を65%以上（およそ3人に2人以上）とする重点目標の達成のために、第2期志木市スポーツ推進計画に基づき、様々な施策に取り組んだ。

1. ライフスタイルに応じたスポーツ習慣・健康づくりの機会の充実

◎成人のスポーツ機会の充実

○チャレンジスポーツ推進事業

令和4年6月5日（日）にバレーボールを実施した。

元女子バレーボール日本代表迫田さおりさんに講師をしていただいた。

○いろは健康ポイント事業

「あるこう！かざすくん」を操作し、楽しみながら、健康づくりを継続していただくことができた。

○ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会

令和5年3月25日（土）に開催された。

427名に参加していただいた。（申込者739名）

◎子どものスポーツ機会の充実

○キッズチャレンジスポーツ推進事業

チャレンジスポーツと同様に実施した。

令和4年6月5日（日）にバレーボールを実施した。

元女子バレーボール日本代表迫田さおりさんに講師をしていただいた。

○放課後子ども教室推進事業

◎高齢者のスポーツ機会の充実

○一般介護予防事業

○いろは百歳体操

○体力測定事業

・健康まつり

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

・総合福祉センターまつり

令和5年3月4日（土）、5日（日）に開催され、3月4日（土）の10時から12時まで体力測定を実施し、41人の方が参加した。

2. スポーツにかかわるきっかけづくり

◎スポーツ事業の充実

○市民体育祭

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

○市民大会

21大会中、18大会が開催された。

3. スポーツ・レクリエーション活動をささえる環境づくり

◎公共スポーツ施設の整備・活用

○指定管理者による公共スポーツ施設の管理運営

○市民会館・市民体育館再整備事業の基本設定

○秋ヶ瀬運動場施設のトイレの更新

○秋ヶ瀬運動場施設のグラウンド整備用バイプロレイキの購入

◎学校施設の整備・活用

○令和3年11月より、中学校の体育館を学校体育施設開放事業として、夜7時から9時まで解放している。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局) 第3期志木市スポーツ推進計画に基づき、「いつでも・どこでも・だれでもスポーツが楽しめる夢のあるまち」の実現にむけて、また、スポーツを週1回以上行う20歳以上の市民の割合を65%以上（およそ3人に2人以上）とする重点目標の達成のために、様々な施策に取り組む。

1. ライフスタイルに応じたスポーツ習慣・健康づくりの機会の充実

◎20歳以上のスポーツ機会の充実

- チャレンジスポーツ推進事業
- いろは健康ポイント事業
- ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会

◎子どものスポーツ機会の充実

- キッズチャレンジスポーツ推進事業
- 放課後子ども教室推進事業

◎高齢者のスポーツ機会の充実

- 一般介護予防事業
- いろは百歳体操
- 体力測定事業

◎障がい者のスポーツ機会の充実

- ノーマライゼーションの推進

2. スポーツにかかわるきっかけづくり

◎スポーツ事業の充実

- 市民大会

3. スポーツレクリエーション活動をささえる環境づくり

◎公共スポーツ事業の充実

- 指定管理者による公共スポーツ施設の管理運営
- 市民会館・市民体育館再整備事業の実施設計
- 秋ヶ瀬スポーツセンターの卓球台の更新

◎学校施設の整備・活用

- 学校体育施設開放事業

を今年度も計画している。

(3) 部活動の地域移行について

事務局) 少子化が進む中、将来にわたり生徒が【スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保】することを目指している。

生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要であるとされている。

部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要であるとされている。

○現状の課題

- ・教諭の負担が大きい。
- ・専門外の教諭からは十分な指導を受けることができない。
- ・少子化により、チームの人数割れが起きる。
- ・教諭と生徒との温度差が生じ、辞めてしまう生徒も居る。

○部活動の地域移行をする実施するメリット

- ・教諭の負担が軽減される。
- ・専門の指導者を派遣し、質の高い練習ができる。
- ・地域単位で取り組むことで、合同チームを作り、他校とのギャップを無くすことができ、交流を深めることができる。
- ・「全国に行きたい!」という方と「仲間と楽しみながら体を動かしたい」という、それぞれのニーズに合わせた環境づくりが可能である。

いままでになかった、ダンス等のスポーツも、専門の指導者を呼ぶことで活動でき、以前より幅広いジャンルの活動ができる。

○部活動の地域移行をする実施するデメリット

- ・トラブル（施設や人間関係等）があったとき、学校関係者が把握できない可能性が考えられる。
- ・部活動中の怪我や事故等があった際の責任の所在が不明確である。
- ・教諭と生徒間での交流が減り、部活動の中で生まれた仲間同士のトラブル等があったとき、相談がしにくい関係になるのではないかな。
- ・指導者が複数の場合、指導方針の相違でギャップが生まれ、一貫性が保てず、生徒側に混乱をきたす。

○部活動の地域移行をする実施する上で起こる課題

- ・運営費等が発生するので、各家庭から会費を取ることも検討が必要。しかし、そうすることによって、家庭の負担が増える。
- ・指導者の人材確保が必要になり、指導者がいない場合、既存の部活動が無くなる可能性がある。
- ・指導者側が途中で投げ出してしまう可能性がある。長期的に実施していく為に、委託先の選定基準や条件を検討する必要がある。

今後スポーツ推進審議会の皆様に部活動の地域移行について、審議会等ご協力をお願いしたい。

委員) こういった事業を取り入れることで、将来の進路にも関わる。文化・芸術系の人口は、スポーツと比べて少なく、指導者が居ない。指導者が充実することで、文化・芸術を習う生徒が増えると考えられる。

同じ種目でも、男女で指導方法が変わる。間違っただけを教えてしまうかもしれない。

指導者によって指導方法のこだわりがある。指導者のクオリティが生徒にも反映される。

期間を設けて、テスト実施を行った方が良い。実施しながら指導者の審査を行う。

近所への配慮等、場所の検討も必要になる。

部活動を指定し、コーチを派遣してしまうと、子ども達が本当にやりたいことができなくなるのではないか。自分で部活動を立ち上げることもある。クラブを設立し、そこに人材派遣をしてはどうか。

海外では、部活動がないというケースがある。プロ選手を目指す方は、お金をかけてクラブに通っている。

地域住民は外部コーチが入ることにどう感じるのか。

事務局) 現在志木市では、小・中学校教諭向け、保護者・生徒向けに、部活動についてアンケートを実施していて、集計中である。

アンケートの結果を踏まえて、今後検討していきたい。

(4) その他

4 閉 会